



# 色彩心理学 -色の印象と人の印象の違い-

班員 片井野 遥海 金丸 桃子  
橘 健司

指導者 春田 かおる先生  
小野 雅史様

## 研究の動機

ファッションやロゴなどは色などで印象が変化するので、使用する色で人からの印象を操作し、好印象を持ってもらうことが可能なのかが気になったから。

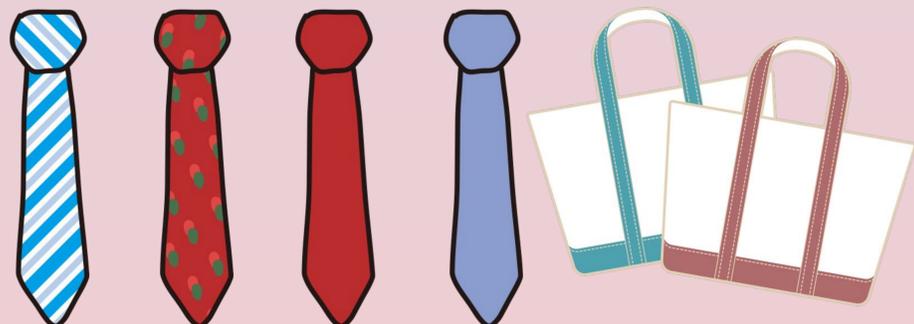
## 先行研究

### 主なカラーイメージ

- 赤:情熱的、自信    ●白:清潔、平和
- 黄:明朗、快活さ    ●桃:やさしさ、愛
- 緑:さわやか、平穩    ●青:誠実、集中
- 紫:上品、神秘    ●橙:朗らか、あたたかい
- 黒:高級、シック    ●金銀:栄光、永遠、豪華

## 研究方法

- ①ネクタイの色のみを変えた画像を用いてアンケートを作成する
- ②自分たちの仮説を立てる(右上参照)
- ③30人にアンケートを実施する  
《アンケート》  
1, 客観的に見て就職の面接時に好印象を持つ順に選んでもらう  
2, 自分の好みの色の順に選んでもらう
- ④集計
- ⑤結果と仮説を比較する
- ⑥好きな色と客観的に好印象を得た色に違いがあるか比較する。



## 仮説

- ・暖色系<寒色系→落ち着いた印象
- ・同系色同士では色の薄い方がネクタイによる色の主張が弱くなり、好印象に繋がるのではないかと。
- ・多少は自分の好みが好印象に影響を与えているのではないかと

## 結果



- 1位 ネイビー
- 2位 グレー
- 3位 黒
- 4位 水色
- 5位 黄色
- 6位 オレンジ
- 7位 赤

好きな色が好印象につながっているか

一番の好印象につながっている  
→15/30人中(50%)  
上位3位以内→21/30人中(70%)  
→ある程度繋がっている

## 考察

- ・暖色系より寒色系のほうが好印象になる。  
→青単体の持つ誠実な印象が着ている人の印象に作用しているからではないか。
- ・真っ黒よりはネイビーやグレーのように多少色がある方が好印象になる。  
→色があるほうが印象に残りやすくなるからではないか。
- ・その人の好きな色は意識せずとも多少好印に繋がる。  
→色に対する好印象がそれを身に着けている人への好印象に作用しているからではないか。

※柄や形によっても印象は変わる。

## 参考文献

色が与えるイメージと効果  
[カラーイメージを味方につける | 色彩関連情報 | DICカラーデザイン株式会社 \(dic-color.com\)](https://dic-color.com)